

公立大学法人 山形県立保健医療大学 項目別評価シート

中期計画	平成22年度 年度計画	平成22年度 年度実績	自己 評定	評価の視点	評定	委員会からの意見等	連番
		方などに関し理解を深めた。					
ウ 教育についての自己評価や外部評価の結果を踏まえ、課題や改善策を整理したうえ、授業内容や教育方法の改善にフィードバックする取組みを進める。	学生の授業評価アンケートについてはその結果を各教員に対してフィードバックするとともに、全学生に対して公表し、その評価結果を踏まえた教育内容等の改善方を検討する。	開講している全授業科目について前期、後期それぞれの授業最終回に行った学生による授業改善アンケートの結果を各教員や学生に対してフィードバックした。 また、現在授業を受けている学生に授業改善が反映されるように、23年度から中間回においてアンケートを実施することとし、本学独自のアンケート用紙を作成した。	A	・学生の評価結果を踏まえた教育内容等の改善方を検討したか。	A		41
エ 大学院教育改革支援プログラム（大学院GP）の応募に取り組むなど、大学院教育課程の組織的展開の強化に努める。	地域保健、地域リハビリテーション関係者との検討会を実施し、大学院GPの申請に向けた活動を推進する。	平成22年度は、新たな公募を行っていない状況にあるが、平成21年度応募した「地域を洞察する学際的リハ専門職育成コースクライアントの文化的背景に基づく人間理解ー」と題するプロジェクトについて、引き続き検討を進めた。	A	・大学院GPの申請に向けた活動を推進したか。	A	十分に検討され、募集があれば速やかに応募できる状況であることは評価できる。	42
ア 講義や実習、実験等が円滑かつ効果的に行えるよう、各教室の実験・実習機材や映像機器等、教育指導に使用する施設・機械について、適切な維持管理を行うとともに、計画的に整備・更新を進める。	教育指導に使用する施設・機械については定期的に点検し、維持・修繕を適切に行う。	講義室の機材については、前期・後期の講義開始前に点検を行い、使用にあたって支障のないようにした。	A	・教育指導に使用する施設・機械について定期的に点検し、維持・修繕を適切に行ったか。	A		43
	更新時期を迎えた施設・機械については、優先順位や財政状況等を加味し計画的な更新を行う。	機器等については、取得年月日、使用頻度、授業での活用状況等を記載したリストを作成し、計画的に更新を行った。施設については、故障、破損、不具合発生など、緊急性の高いものから対応を行った。	A	・更新時期を迎えた施設・機械について、優先順位や財政状況等を加味し計画的な更新を行ったか。	A		44
イ 学生が自主的学習を積極的に行えるよう、専門分野に関するAV教材の拡充など、自学自習施設・設備の充実を図る。	学生等の利用に資するため図書室等に配備している各専門分野についてのDVDソフト等の更新、充実を進める。	専門分野に関するDVDソフトの新規購入、劣化しているDVDソフト・ビデオソフトを順次更新するとともに、ビデオからDVD版への	A	・各専門分野についてのDVDソフト等の更新、充実を進めたか。	A		45

公立大学法人 山形県立保健医療大学 項目別評価シート

中期計画	平成22年度 年度計画	平成22年度 年度実績	自己 評定	評価の視点	評定	委員会からの意見等	連番
		移行を進めた。					
	情報処理教室の充実について検討する。	情報処理教室は、学生の積極的な自主学習を促進するために最大限の利用便宜を図っているが、さらに効率のよい利用方法について検討した。また、震災時の学生の安全確保などの対応を検討した。	A	・情報処理教室の充実について検討したか。	A		46
ウ 附属図書館について、利用形態、施設設備、蔵書内容その他多角的に運営状況を検証し、利用者ニーズを踏まえた蔵書・資料の充実とサービスの向上に努める。	和書及び洋書を合わせた蔵書数を57,000冊にする。	平成22年度末の蔵書数は59,354冊となった。	A	・和書及び洋書を合わせた蔵書数は57,000冊以上になったか。	A		47
(数値目標) 和書及び洋書を合わせた蔵書数について、20年度末の5万5千冊から、最終年度まで6万冊以上の水準に引き上げる。	ニーズを踏まえ、文献検索データベースの整理を行い、教職員、院生および学生が和雑誌の論文をフルテキストでダウンロードできるメディカルオンラインを4月から導入する。	日本国内の医学関連雑誌や学術専門誌を統合し、検索、ダウンロードが可能なメディカルオンラインを4月に導入し、年間5,965件の論文のダウンロードの利用があった。	A	・メディカルオンラインを導入したか。	A		48
ア 本学の教育理念や教育目標を踏まえた、具体的な入学者受入方針(アドミッション・ポリシー)を平成21年度中に策定し、公表する。	(22年度該当なし)	—	—		—		
イ 本学の特色や入学者受入方針等の周知を図るため、大学ホームページや案内用冊子の内容の充実を図るとともに、大学説明会やオープンキャンパス、高校訪問等の機会を有効に利用し、広報の強化を図る。	新たに追加された総合問題に対する入試相談や在学生とのフリートークなど、よりきめ細やかにオープンキャンパスを実施する。	入試や大学生生活の疑問、心配なことについて、在学生や教員とフリートーク、相談できるコーナーを設置した。このコーナーに訪れた多くの参加者に対し、きめ細やかな相談対応を行った。オープンキャンパスの参加者は590名、アンケートの結果、内容についても好評を得た。	A	・よりきめ細やかにオープンキャンパスを実施したか。	A		49
	受験生や地域のニーズに応	10月にワーキンググループを	S	・受験生等のニー	S		50

公立大学法人 山形県立保健医療大学 項目別評価シート

中期計画	平成22年度 年度計画	平成22年度 年度実績	自己 評定	評価の視点	評定	委員会からの意見等	連番
	えた大学情報をホームページに掲載するため、ホームページのリニューアルを検討する。	立ち上げ、掲載内容を充実させるとともに、必要とする情報検索が容易で効果的な情報提供ができるよう、平成23年4月リニューアルに向け、検討し、作業を行った。		ズに応えた大学情報をホームページに掲載するため、リニューアルを検討したか。			
	高校訪問や進学相談時等において、高校に対し、大学への訪問見学をより一層呼びかける。	県内の高校を訪問したほか、出張進学説明会を行うなど、大学への訪問見学を広く呼びかけ、その結果、10高校からの大学への訪問見学を受入れた。また、当学教員を高校へ派遣し模擬授業を行う広報活動も行った。	A	・高校に対し、大学への訪問見学をより一層呼びかけたか。	A		51
ウ 毎年の志願者数や入学者数の推移、入学後の成績等の状況を検証し、アドミッション・ポリシーに沿った優秀な学生の受入れに向け選抜方法や試験日程等入試制度全般にわたり継続的な検討、改善を図る。	平成24年度大学入試センター試験から出題科目の選択範囲に変更が生じることに伴い、入試に関する動向等を分析し選抜方法等のあり方を検討する。	平成24年度入学者選抜に向け、入試委員会、教授会において、選択教科・科目について検討した。また、入試委員会に統計部会を設置し、受験生の動向、入学生の入試時の成績と修学成績との関係などを把握していくこととした。	A	・入試に関する動向等を分析し選抜方法等のあり方を検討したか。	A		52
エ 多様な志望動機や職業を持つ大学院志願者に対応するため、大学院における、社会人向けの履修環境の改善や県内自治体等からの派遣生の受入れ環境の検討など、必要な取り組みを展開する。	社会人院生については、必要に応じ、夜間や土曜における授業の設定や、メール等でのきめ細かい指導を行うなど、履修環境の改善を推進する。	社会人院生にきめ細かい指導ができるよう、ガイダンスの実施や7時限の授業時間に柔軟性をもたせるための検討を行い、履修環境の改善を推進した。	A	・社会人院生について、履修環境の改善を推進したか。	A		53
ア 履修科目についての情報を学生に的確に伝えるため、シラバスの充実に努める。	シラバスについてその標準化を図るため、手引きの作成に向け課題の整理を行う。	シラバスについてその標準化を図り、教員用の手引きの作成を行った。	S	・シラバスについてその標準化を図るため、手引きの作成に向け課題の整理を行ったか。	S		54

公立大学法人 山形県立保健医療大学 項目別評価シート

中期計画	平成22年度 年度計画	平成22年度 年度実績	自己 評定	評価の視点	評定	委員会からの意見等	連番
イ オフィスアワー制度の導入を図り、学生が教員に対して気軽に学習等の相談をできる環境を整備する。 また、学生の履修状況については、各学科において常に留意し、履修指導が必要な場合は関係教員が連携しきめ細かな指導・助言を行う。	オフィスアワー制度の学内の普及について検討する。	12月からオフィスアワーの試行を実施し、各教員のオフィスアワーを一覧にまとめ、学生に周知した。この試行状況を踏まえ、制度の普及に向けた検討を行った。	A	・オフィスアワー制度の学内の普及について検討したか。	A		55
	学生に単位不足等の履修上の問題が生じた場合は、学科教員会議を通じて対策を検討し、学年担当教員を中心にきめ細かな個別指導等を行う。	各学科とも学年担当教員・教務委員を中心に、学科教員会議や教務委員会で情報の共有・検討を行い、きめ細かな指導を行った。	A	・学生に単位不足等の履修上の問題が生じた場合に、きめ細かな個別指導等を行うことができたか。	A		56
ウ 学生が自主的学習を積極的に行えるよう、専門分野に関するAV教材の拡充など、自学自習施設・設備の充実を図る。(再掲)	学生等の利用に資するため図書室等に配備している各専門分野についてのDVDソフト等の更新、充実を進める。(再掲)	専門分野に関するDVDソフトの新規購入、劣化しているDVDソフト・ビデオソフトを順次更新するとともに、ビデオからDVD版への移行を進めた。	A	・各専門分野についてのDVDソフト等の更新、充実を進めたか。	A		57
	情報処理教室の充実について検討する。(再掲)	情報処理教室は、学生の積極的な自主学習を促進するために最大限の利用便宜を図っているが、さらに効率のよい利用方法について検討した。また、震災時の学生の安全確保などの対応を検討した。	A	・情報処理教室の充実について検討したか。	A		58
エ 障がいや疾病のある学生が支障なく学習や研究に取り組めるよう、学内環境の点検・整備を進める。	疾病・障がい等を有する学生に対する学内施設・設備の対応状況が十分であるか検証し、問題がある場合はその対応策を検討する。	学内施設・設備状況について調査を行い、学生支援委員会において保健室運営委員会と連携しつつ検証し、その対応策を検討した。	A	・疾病・障がい等を有する学生に対する学内施設・設備の対応状況が十分であるか検証し、問題がある場合はその対応策を検討したか。	A		59
ア 学生が大学生活上の諸問題を相	学生の大学生活上の個別相	各学科の指名による学生相談員	A	・学生の大学生活	A		60

公立大学法人 山形県立保健医療大学 項目別評価シート

中期計画	平成22年度 年度計画	平成22年度 年度実績	自己評定	評価の視点	評定	委員会からの意見等	連番
<p>話し、解決できるよう、学外カウンセラーの配置を早期に検討するなど、学生相談に関する体制等の整備、充実を図る。</p>	<p>談等に応じるため、学生相談員に指名された各学科の教員で構成する学生相談室を運営する。</p>	<p>6名からなる学生相談室を設置し、随時相談受け付けを行い、学生生活を支援した。</p>		<p>上の個別相談等に応じるため、学生相談室を運営できたか。</p>			
	<p>大学ロビーに学生意見箱を設置し、教育・施設設備面等幅広く学生の意見、要望等を収集する。また、寄せられた意見、要望等及びそれに対する回答は掲示板に掲示し、全学生及び教職員に周知する。</p>	<p>大学ロビーに学生意見箱を設置し、学生の意見、要望等を毎月収集した。また、寄せられた意見、要望等及びそれに対する回答は掲示板に掲示し、全学生及び教職員に周知した。</p>	A	<p>・学生の意見、要望等を収集し、それに対する回答を学生及び教職員へ周知したか。</p>	A		61
	<p>学外カウンセラーの配置を試行する。</p>	<p>学外カウンセラーの配置を検討し、平成23年度配置に向けた調整を行った。</p>	B	<p>・学外カウンセラーの配置を試行したか。</p>	B		62
<p>イ 学生生活の充実のため、サークル活動やボランティア活動への参加など、学生の自主的活動を奨励するとともに、サークルの学内施設の利用にあたっての配慮や地域のボランティア活動に関する情報提供など必要な支援を行なう。</p>	<p>サークル活動や大学祭開催など、学生の自主的活動に対する学内の施設利用について最大限配慮する。</p>	<p>学生が主体となるサークル活動や大学祭など各行事に係る施設利用許可申請等に対して、施設管理に支障のない限り許可した。</p>	A	<p>・学生の自主的活動に対する学内の施設利用について最大限配慮したか。</p>	A		63
	<p>保健医療関係や地域で行われているイベントやボランティア活動等の情報を学生へ適宜提供し積極的な参加を促す。</p>	<p>東日本大震災において、ボランティアサークルや自治会などへの働きかけや支援を行うなど、学生の参加を促し、教員と共に避難者支援などを行った。</p>	S	<p>・イベントやボランティア活動等への学生の積極的な参加を促すことができたか。</p>	S		64
<p>ウ 保健室へ常駐職員を配置するなど、学生の疾病や健康相談等に迅速かつ適切に対応できる体制を整備する。</p>	<p>保健室に週5日間職員を配置し、学生の健康相談等対応を行う。</p>	<p>保健室に週5日間職員を配置し、学生の健康相談等対応を行った。</p>	A	<p>・保健室に職員を配置し、学生の健康相談等対応をおこなったか。</p>	A	<p>学生相談員、保健室スタッフや担当教員などによる支援体制について、今後とも検討を続け、充実を図ってほしい。</p>	65
	<p>保健室対応マニュアルを作成する。</p>	<p>保健室運営委員会において、保健室の利用状況に即した効果的な利用ができるよう、保健室対応マニュアルについて検討を行った。</p>	B	<p>・保健室対応マニュアルを作成したか。</p>	B		66

公立大学法人 山形県立保健医療大学 項目別評価シート

中期計画	平成22年度 年度計画	平成22年度 年度実績	自己 評定	評価の視点	評定	委員会からの意見等	連番
エ 成績が優秀でありながら学資等が十分でなく就学が困難な学生に対しては、一定の条件のもと、授業料減免等の制度を活用し支援する。	学生に対して、年度当初のオリエンテーションや学内掲示板等により授業料減免制度や奨学金制度を十分に周知するほか、事務室窓口を担当者を配置し、学生からの相談等に対して迅速に対応できる体制を整備する。	年度当初のオリエンテーションや学内掲示板等において、授業料減免や奨学金制度について周知するとともに、事務室窓口を担当者を配置し、学生からの相談等に対して迅速に対応できる体制を整備した。	A	・学生に対して、授業料減免制度や奨学金制度を十分に周知したか。 ・事務室窓口を担当者を配置し、学生からの相談等に対して迅速に対応できる体制を整備したか。	A		67
ア 国家資格試験受験希望者に対して、模擬試験の実施や休日における演習室の開放など、資格取得に向けた各種の支援策を効果的に実施する。	4年次の後期など、学生が国家試験に向け集中的に学習する時期においては、休校日においても講義室や演習室等を開放するなど、受験者への施設、設備面の利便性に配慮する。	平日は講義のない演習室等を自主学習に開放しており、また、国家試験前には休日の開放も行った。	A	・受験者へ施設、設備面の利便性に配慮したか。	A		68
(数値目標) 看護師、保健師、助産師、理学療法士及び作業療法士の国家試験合格率について、全国合格率以上を確保し、100%の合格率を目指す。	国家試験受験希望者に対し、必要に応じ教員による補講や、国家試験を想定した業者模擬試験、学内模擬試験（3年次を含む）を数多く行うなど、学習面での効果的な支援を行なう。	各学科において希望者に対して補講を実施した。また、学科毎・資格毎に学内・業者模擬試験を、看護は10回、理学は17回、作業は10回実施した。	A	・国家試験受験希望者に対し、学習面での効果的な支援を行なったか。	A		69
イ 学生の円滑な就職・進学活動を積極的に支援し、卒業生の県内定着という視点も踏まえ大学として高い就職率を継続していくため、学生向けの就職対策研修会の開催や県内病院等を招いての就職説明会の実施、学内ネットワークを活用した学生への迅速な就職・進学情報の提供など、就職・進学支援のための	県内施設の詳細情報を学生に提供するため、県内医療福祉施設関係者による就職ガイダンスを、年2回開催する。	3、4年の学生を対象に、県内医療福祉施設関係者が直接学生に説明する就職ガイダンスを、5月29日、8月11日の2回開催した。	A	・県内医療福祉施設関係者による就職ガイダンスを、年2回開催したか。	A		70
	求人や会社見学会の情報については掲示板に掲示するとともに、学内情報ネットワーク等を活用し、24時間パソコンや携帯電話から情報を取得で	求人情報等を学科別に一覧表にして掲示板に掲示するとともに、学内情報ネットワークに掲載し、学生のパソコン及び携帯電話から常時アクセスできる環境を提供し	A	・求人や会社見学会の情報について、掲示板や学内情報ネットワーク等の活用により、常に情	A		71

公立大学法人 山形県立保健医療大学 項目別評価シート

中期計画	平成22年度 年度計画	平成22年度 年度実績	自己 評定	評価の視点	評定	委員会からの意見等	連番
<p>取組みを効果的に展開する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>(数値目標) 就職希望者の就職率 100%を 目指す。</p> </div>	<p>きる機能を提供する。</p>	<p>た。</p>		<p>報を取得できる機能を提供できたか。</p>			
	<p>就職資料室には、求人情報などを、各学科毎、各県別に整理し、常時閲覧できるようにする。</p>	<p>就職資料室には、求人情報などを、学科毎、各県別に整理し、開校日は常に閲覧できるようにした。</p>	A	<p>・求人情報などを、各学科毎、各県別に整理し、常時閲覧できるようにしたか。</p>	A		72
	<p>「就職マナーアップセミナー」を4年生に加え、3年生にも開放する。</p>	<p>保健医療職従事者として必要な患者対応マナーやコミュニケーション能力を養うセミナーを、4月7日に、2年生まで対象を広げ開催した。また、希望学生に対しては、個人面接方式による模擬面接指導を実施し、より実践的な面接指導を行った。</p>	A	<p>・「就職マナーアップセミナー」を3年生にも開放したか。</p>	A		73
2. 研究に関する目標							
<p>ア 教員が、最新の知識や技術に基づく質の高い研究に積極的に取り組めるよう、電子ジャーナル等を活用した国内外の最新の論文等の情報を迅速に収集する機能の強化や、教員の共同研究発表会を定期的を開催するなど、研究水準の向上につながる取組みを継続的に展開する。</p>	<p>教職員、院生および学生が和雑誌の論文をフルテキストでダウンロードできるメディカル・オンラインを4月から導入する。(再掲)</p>	<p>4月にメディカルオンラインを導入し、年間5,965件の論文ダウンロードの利用があった。</p>	A	<p>・メディカルオンラインを導入したか。</p>	A		74
	<p>共同研究については、県健康福祉部との連携事業を含め、共同研究発表会を開催しその成果を学内外に公表する。</p>	<p>9月22日に、学内及び共同研究関係機関担当者のほか、県関係課職員の参加を受け、共同研究発表会を実施した。</p>	A	<p>・共同研究発表会を開催しその成果を学内外に公表したか。</p>	A		75
	<p>21年度から開始した、研究発表等を通じて相互の研究交流や自己研鑽を図る「教員研究セミナー」の充実を図る。</p>	<p>すべての学内教員を対象に、各自の研究領域の紹介や最近行った研究発表などを行う「教員研究セミナー」を、学科交代制で定期的で開催した。また、年間を通じて計画的に開催できるよう調整・検討を行った。</p>	A	<p>・「教員研究セミナー」の充実を図ることができたか。</p>	A		76
	<p>国内外の学術会議での発表</p>	<p>研究成果は、学術会議での発表</p>	A	<p>・研究成果を積極</p>	A		77

公立大学法人 山形県立保健医療大学 項目別評価シート

中期計画	平成22年度 年度計画	平成22年度 年度実績	自己 評定	評価の視点	評定	委員会からの意見等	連番
	や、学会誌における投稿や寄稿など研究成果を積極的に発信する。	や、学会誌における投稿・寄稿を積極的に行うとともに、県内医療従事者を対象とした講習会開催したほか、県内4か所で実施した公開講座などを通じ広く県民に公開した。		的に発信したか。			
イ 県内各層との意見交換等を通じて保健・医療・福祉に関する地域課題を的確に把握し、個人研究のほか、県内の行政機関や病院職員等との共同研究を行い、その解決に積極的に取り組む。 また、教員が行った研究の成果については、大学の紀要「山形保健医療研究」の出版や、学会での発表、学術雑誌への論文寄稿等により広く公表する。	大学として、医療機関や福祉施設を訪問し、保健・医療・福祉に関する現場の意見等を適切に把握する。22年度は庄内地区を訪問する。	9月29日に、庄内地区の2病院、1施設を訪問し、病院や施設の職員と意見交換を行った。	A	・保健・医療・福祉に関する現場の意見等を適切に把握したか。	A		78
	県や関係団体等からの研究事業の委託や共同研究の実施などに積極的に取り組む。	県施策テーマに応じ、関係課と連携した3件の研究を実施し、その成果は、共同研究発表会で公表した。また、県内5医療機関と共同研究の推進を含む連携協定を締結した。	S	・県や関係団体等からの研究事業の委託や共同研究の実施などに積極的に取り組んだか。	S		79
	本学の教員及び大学院生等の研究成果をまとめた紀要「山形保健医療研究」vol.14を発刊し、本学ホームページ及びゆうキャンパスリポジトリに公開する。	本学における研究成果をまとめた紀要「山形保健医療研究」vol.14を発刊し、本学ホームページ及びゆうキャンパスリポジトリにて公開した。	A	・紀要を発刊し、大学ホームページ及びゆうキャンパスリポジトリに公開したか。	A		80
ア 研究活動の活性化と研究の質の向上を検討するための学内委員会を平成21年度に設置する。	(22年度該当なし)	—	—		—		81
イ 研究活動の推進に必要な施設、機器等について定期的に点検するとともに、計画的な整備拡充を行う。	教育研究活動に使用する施設・機器等について、使用年数や維持状態、活用頻度、有効活用等の点検を行う。	機器等については、使用年数、授業での活用内容・活用頻度等を記載したリストを作成した。 また、施設については、随時の点検により故障、破損、不具合等の発生状況を把握している。	A	・施設・機器等について、使用年数や維持状態、活用頻度、有効活用等の点検を行ったか。	A		82

公立大学法人 山形県立保健医療大学 項目別評価シート

中期計画	平成22年度 年度計画	平成22年度 年度実績	自己 評定	評価の視点	評定	委員会からの意見等	連番
	更新時期を迎えた施設・機械については、優先順位や財政状況等を加味し計画的な更新を行う。	機器等については、リストに基づき、計画的に更新を行った。また、施設については、緊急性の高いものから、順次、修繕等の対応を行った。	A	・更新時期を迎えた施設・機械について、優先順位や財政状況等を加味し計画的な更新を行ったか。	A		83
ウ 教員や大学院生が人を直接対象とする研究を行う場合の倫理的配慮の徹底を図るため、学内の倫理審査に関する規定を整備するとともに、学外委員を加えた倫理委員会を運営し、厳正な倫理審査を行う。	学外の有識者を含めた倫理委員会を運営し、厳正な倫理審査を行う。	学外有識者2名を含む8名の委員により5回開催し、延べ28件の審査を実施した。	A	・厳正な倫理審査を行ったか。	A		84
エ 大学の研究活動全般について、定期的な自己評価及び外部評価により適切に検証し、必要な改善を図る。	「自己点検・評価報告書」の作成に向け、諸課題を整理する。	平成21年度に係る自己点検・評価報告書について、各学内委員会において、課題を整理しつつ、所掌事項毎に作成し、報告書を取りまとめた。	A	・「自己点検・評価報告書」の作成に向け、課題を整理したか。	A		85
	大学認証評価機関等による外部評価の結果を公表する。	平成21年度に財団法人大学基準協会から同協会の大学基準に適合しているとの認定を受け、平成22年3月より本学ホームページで評価結果を公表している。	A	・大学認証評価機関等による外部評価の結果を公表したか。	A		86
	助言を受けた問題点等に対する改善計画の策定を検討する。	改善計画の策定に向け、個々の問題点等ごと、関係する委員会が中心となって、問題点等の検討を行った。	A	・助言を受けた問題点等に対する改善計画の策定を検討したか。	A		87
3 地域貢献に関する目標							
ア 地域貢献や地域連携を効果的に進めるための学内委員会を平成21	(22年度該当なし)	—	—		—		88

公立大学法人 山形県立保健医療大学 項目別評価シート

中期計画	平成22年度 年度計画	平成22年度 年度実績	自己 評定	評価の視点	評定	委員会からの意見等	連番
<p>年度に設置し、体制面の強化を図る。</p> <p>イ 本県を取り巻く保健・医療・福祉の課題を踏まえた適切なテーマを設定した公開講座を県内で開催する。</p> <p>また、実施した公開講座については年度ごとに報告書として記録し、資料として県民が活用できるよう整備する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>(数値目標)</p> <p>一般県民を対象として行う公開講座について、県内4地区で各1回以上、計4回以上開催する。</p> </div>	<p>健康と福祉をテーマにした公開講座を、山形市、新庄市、酒田市、米沢市の4ヶ所で実施する。</p> <p>公開講座の参加者にアンケートを実施し、内容や実施時期等についての意見や要望を把握し、内容の充実等を検討する。</p> <p>公開講座報告書を作成し、資料として県民が活用できるよう整備する。</p>	<p>「考えよう!健康と福祉」をテーマとして、山形市(6月19日)、新庄市(7月24日)、酒田市(9月11日)、米沢市(10月16日)の4ヶ所で開催した。</p> <p>公開講座で毎回アンケートを行い、内容・実施時期等に関する参加者の要望を把握している。引き続き、県民の関心に沿った適切なテーマとなるよう、次年度の計画を検討した。</p> <p>4回の公開講座の内容を1冊の報告書にまとめ、県内の図書館等に送付した。</p>	A	・健康と福祉をテーマにした公開講座を実施したか。	A		89
<p>ウ 県内の看護や理学療法、作業療法の各分野の従事者を対象として、本学教員を講師とした技術研修会の開催や、海外研究者等を招へいして実施する特別講義を開放するなど、地域の保健医療等関係者の資質向上に寄与する取組みを行う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>(数値目標)</p> <p>県内の保健医療等従事者に対する研修会について、毎年度、3学科で各1回以上、計3回以上開催する。</p> </div>	<p>海外の研究者を招へいし学内で講義や講演を実施する場合は、関係する県内の従事者に対しても広く開放する。</p> <p>県内の看護師や理学療法士、作業療法士を対象とした技術研修会を本学教員を講師として各学科ごとに実施するとともに、参加者へのアンケートを実施し内容の充実を検討する。</p>	<p>7月16日に、コロラド州立大学作業療法学科長Wendy Wood教授の「作業療法の自我危機と作業科学」と題したナイトセミナーを開催した。学外にも開放し、県内の医療・保健・福祉関係者約20人の参加があった。</p> <p>看護学科4回、理学療法学科2回、作業療法学科1回、計7回の医療関係者対象の講座を実施した。アンケート結果は良好であったが、内容を踏まえ講座の充実を検討した。</p>	A	・海外の研究者を招へいし学内で講義や講演を実施する場合に、関係する県内の従事者に対しても広く開放したか。	A		92
<p>エ 地域の医療機関や大学、行政機関等との連携、いわゆる産学官連携を</p>	<p>「大学コンソーシアムやまがた」の参加校が連携して実施す</p>	<p>コンソーシアムが主催する一般市民を対象とした公開講座のパネ</p>	A	・県民向けに学習機会を提供する事	A		94

公立大学法人 山形県立保健医療大学 項目別評価シート

中期計画	平成22年度 年度計画	平成22年度 年度実績	自己 評定	評価の視点	評定	委員会からの意見等	連番
積極的に推進し、保健・医療・福祉に関する地域課題の解決に取り組む。	「教職員交流・連携に関する事業」など、県民向けに学習機会を提供する事業に参画する。	ラーとして、本学教員から参加するなど事業に参画した。		業に参画したか。			
	自治体や民間団体等からの講義・講演の依頼や審議会委員への就任依頼等があった場合は、地域貢献の一環として、学内で適任者を選出し積極的に派遣する。	講師の派遣や委員への就任の依頼があった場合は、学内で適任者を選任し積極的に派遣を行った。	A	・講義・講演の依頼や審議会委員への就任依頼等に、積極的に派遣したか。	A		95
オ 地域で大規模災害が発生した場合は、地元自治体との連携のもと、大学施設の開放や本学の人的資源を活用した救護活動など復旧支援活動に最大限協力する。	(22年度該当なし)	—	—		—		96
カ 県民の健康と福祉の向上、及び地域の発展に貢献するという観点から、本学の知的・人的資源をより有効に活用するための方策を検討する。	(22年度該当なし)	—	—		—		97
3 国際交流に関する目標							
ア 学生が海外の先進的な知識や技術を実地で触れることができるよう、本学と海外交流協定締結校との間で実施している国際交流事業について、参加学生アンケートや他大学の実施状況等を参考に、内容の充実を図りながら継続的に実施する。	国際交流事業について、学生のアンケート等を参考に次回の実施内容等を検討する。	国際交流事業について、3学科共通のアンケートを実施し、結果を踏まえて次回の実施内容等を検討した。	A	・国際交流事業について次回の実施内容等を検討したか。	A		98
	国際交流に関する資料を充実させる。	図書館内に国際交流に関する資料のコーナーの設置に向け、資料収集や整理を行った。	A	・国際交流に関する資料を充実させたか。	A		99
イ 本学の教員や学生の国際学会への出席や、外国の研究者を招へいし、講演会の開催など、海外との教育研究交流について活性化を図る。	海外の国際交流協定締結校等から研究者を招へいし、講演等を受ける機会を1回以上設定する。(再掲)	コロラド州立大学作業療法学科長 Wendy Wood 教授の講義と、コロラド大学看護部国際交流部門責任者 Diane C. Lenfest 氏の講演を、7月16日開催した。	A	・海外の国際交流協定締結校等から研究者を招へいし講演等を受ける機会を設定したか。	A		100
ウ 学生の国際的な感覚・知識の涵養を図るため、外国人教員の登用を	海外の最先端の知識・技術への理解を深めるため、本学の	国際交流締結大学から教員として招へいした場合の給与等待遇つ	A	・外国人教員の有期での採用を検討	A		101

公立大学法人 山形県立保健医療大学 項目別評価シート

中期計画	平成22年度 年度計画	平成22年度 年度実績	自己 評価	評価の視点	評 定	委員会からの意見等	連番
推進する。	専門領域に関して高い知見を有する外国人教員の有期での採用を検討する。(再掲)	いて具体的な検討を行った。なお、採用候補者の都合により23年度は採用とならなかった。		したか。			
エ 国内外に広く本学を広報するため、本学ホームページの外国語表記版の内容の改善、充実を図る。	ホームページの英語表記版について、更新を行う。	23年4月のホームページ全体のリニューアルに合わせて、更新作業を行った。	A	・ホームページの英語表記版について更新を行ったか。	A		102